

「さとやま未来円卓会議」の開催結果について

1 要旨・目的

中山間地域の課題解決に取り組む、ひろしま里山・チーム500の登録者（以下「500登録者」という。）の活動の継続と発展を支援するため、「さとやま未来円卓会議」を本年度計2回開催し、500登録者6名が発表した各取組課題に対し、円卓会議構成員から助言や情報提供などを行った。

2 現状・背景

中山間地域振興計画に基づく「人づくり」の一環として、500登録者による地域づくり活動を支援するため、平成30年度、経済団体や金融機関などで構成する「さとやま未来円卓会議」を設立し、活動支援に取り組んでいる。（累計：31組、（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため中止））

3 概要

(1) 対象者

チーム500登録者

（参考）「さとやま未来円卓会議」構成36団体

行政 — 国（財務省中国財務局、経済産業省中国経済産業局）、県、市町
経済団体 — 広島県商工会議所連合会、広島県商工会連合会 ほか
金融機関 — ひろぎんエリアデザイン、もみじ銀行、広島信用金庫 ほか
大学 — 広島大学、県立広島大学、叡啓大学
関係機関 — 特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター、公益財団法人ひろしま産業振興機構

(2) 事業内容（実施内容）

ア 発表者に対する会議前の主な支援

円卓会議構成員から、活動の継続と発展に資する的確な助言等が得られるよう、500登録者の取組に関する課題分析等を通じて、必要な人材や資金確保、専門分野における個別相談支援といった、円卓会議構成員に求めることが適切な助言内容等の整理を支援した。

イ 発表者の取組課題に対する対応等（詳細は次表参照）

（ア）令和5年度第1回（令和5年8月8日）

発表者の取組課題に対し、構成団体から助言や支援の申し出があった。

＜主な助言・支援内容等＞

- 行政： 県外のイベント出店の声掛け等PR・周知への協力、イノベーション創出拠点の紹介等繋がりづくりに向けた支援 など
- 金融機関： 新商品開発等に向けた助言、経済情報誌への紹介 など
- 大学： 取組への学生の参画、レシピ開発や成分分析に向けた共同研究の検討、講義の依頼 など

(イ) 令和5年度第2回(令和6年2月7日)

発表者ごとの取組内容や課題などに応じて構成団体をグループ編成し、発表者の課題解決に向けた意見交換等を行った。現在、発表者が求める支援への対応が可能な構成団体とのマッチング等のフォローアップを実施中である。

【令和5年度の実施状況】

回次	開催日	発表者(活動地域)	取組課題及び登壇時の助言・連携等
第1回	R5.8.8	<small>のぶはら</small> 延原 真由子 氏 (三次市)	<取組課題> 地域づくりチーム「Teto teto」として、引継ぎ手のいない製茶工場を受け継ぎ栽培するほうじ茶・はぶ草茶の加工品の高付加価値化や販路拡大 <登壇時の助言・連携等> ○ 加工品の原価率が業界平均と比べて高いため、原価率設定の見直しに関する助言 ○ 共同研究や成分分析等の分野に関する大学との連携
		<small>ささき</small> 佐々木 有紀子 氏 (県内全域)	<取組課題> フードコーディネーター等の資格を活かした、商品開発・販売などに関わる事業者へのサポートをより長期的に伴走支援する業務スタイルへの転換 <登壇時の助言・連携等> ○ 取引先に食品加工業者が多くいる金融機関との連携 ○ イノベーション創出拠点施設の紹介
		<small>きしもと</small> 岸本 恭子 氏 (神石高原町)	<取組課題> 神石高原町を「キャンプの聖地」として認知してもらうためキャンプ用品の開発・販売を行う『JINSEKI BASE』の認知度向上やPR力強化 <登壇時の助言・連携等> ○ 大学から、学生がキャンプ体験をできるプログラム造成の提案 ○ 新商品開発等における金融機関との連携
第2回	R6.2.7	<small>じんのうち</small> 陣内 綾 氏 (東広島市)	<取組課題> 藁細工をはじめとした伝統的な手仕事の持続可能なビジネスへの転換や藁細工製品の価値向上 <登壇時の助言・連携等> ○ 実際に商品を手にとってもらうことができる、広島市内のセレクトショップの紹介 ○ オーダーメイド商品の制作に関する提案
		<small>とりい</small> 鳥井 実香 氏 (三次市)	<取組課題> 安田地域を活性化させるために行っているマルシェやイベントの集客増加や認知拡大 <登壇時の助言・連携等> ○ 地元テレビ局への紹介 ○ 企業組合のような体制の構築に関する提案
		<small>みねお</small> 峰尾 亮平 氏 (江田島市)	<取組課題> 100年後もオリーブが育っているような持続可能な地域を目指し、江田島市に島内外の人が継続的に関わるプラットフォームづくり <登壇時の助言・連携等> ○ 広島県内の観光体験事業者と連携したイベント企画の実施に関する助言 ○ 「体験」をふるさと納税の返礼品とする提案

(3) 予算(単県)

1,628千円

(4) 事業効果

商品のPR・販売機会の増加や新商品開発、商品の収益性の向上など、構成団体による支援・連携等を通じて、チーム500登録者の活動の後押しにつながった。

(5) 今後の対応

発表者の活動の進捗等を定期的に確認し、活動状況や課題に応じて構成団体等への協力要請を検討するなど、引き続き、チーム500登録者の活動の後押しに取り組む。

4 その他（関連情報等）

広島県ホームページ

【第1回】

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/semi-mt/satoyama-entaku230808.html>

【第2回】

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/semi-mt/satoyama-entaku240207.html>